（別紙様式1）

平成 27 年度学校評価実施計画

学校名	大分大学教育福祉科学部附属特別支援学校

前年度評価結果の概要	①安全管理に対する意識が高まってきたものの、情報の共有が不十分である。毎朝の確認を徹底しておこない、教師の安全に対する意識のさらなる改善が望まれる。学校安全計画の実施の評価を定期的に確認する必要がある。 ②ケース会議・モニタリング会議を行っている児童生徒数が増えた。個別の教育支援計画を指導計画や毎日の指導・支援にさらに反映する必要がある。 ③児童生徒の指導について、一人一実践の取り組みが教師自身の成果となり、保護者・評議員ともにおおむね良いとの評価を受けた。 ④児童生徒たちの自主的で自立的な活動の成果が表れており、以前に比べ子どもたちの声が聞こえる学校になったと評価を受けた。 ⑤教職員の人事、業務分担の偏り、勤務時間の管理について、不十分であるとの結果をうけた。改善の必要がある。

学校教育目標	中期目標	重点目標
個人の尊厳を重んじ、児童生徒一人一人の心身の発達に応じて、小学部、中学部並びに高等部の各課程を通して、調和のある一貫した教育を行い、自己のもつ能力や可能性を最大限に伸ばし、身辺生活の確立をはじめ、集団生活、社会生活、職業生活への適応性を高め、自立的、主体的な生活ができる人間の育成をめざす	1 安全・危機管理意識の重要性を日常的に意識すること 2 地域へ貢献できる魅力ある研究への取り組み 3 確かな指導を基本にした教材等の開発についての情報発信 4 小・中学部・高等部の一貫した自立・社会参加に向けての指導の充実（キャリア教育の視点から） 5 特別支援教育のセンター的機能の充実（UD・合理的配慮の視点から）	1 学校安全計画を活用し、安全・危機管理意識を高める毎日の取り組みの徹底を行い、安全・危機・災害に強い学校を作る 2 児童生徒理解と一人一人の教育的ニーズを基にした、どの子も活動参加への意欲が高まる授業づくりを行う 3 学校課題解決・目標達成のために職員一人一人がより広い視野で自らの役割と責任を自覚し、組織的に取り組む

PL：プロジェクトリーダー、SL：サブリーダー

重点目標	達成(成果)指標	重点的取組	取組指標	PL SL
1 学校安全計画を活用し、安全・危機管理意識を高める毎日の取り組みの徹底を行い、安全・危機・災害に強い学校を作る	○すべての教員が朝のうちに必要な情報を把握しており、危機管理に備えている	○毎朝、校長、教頭、教務主任、学部主事が集まり、児童生徒の出席や健康の状況、職員の勤務状況などを確認し、適切な教職員の配置や授業変更等の対応を決める	○毎朝、定時に校長室に集まり、各学部の児童生徒と教職員の状況確認をし、対応を管理職間で共有する ○主事は毎朝、各学部ごとに授業変更や職員の配置変更などを学部教員に伝える	PL：学部主事 SL：学級担任
	○学校における学習活動、教育環境の安全が確保されている	○学校安全計画について定期的に確認をする機会を設定し、実施の評価、次の取り組み内容を確認する	○月1回の運営委員会で、ヒヤリハット事例と安全点検結果を確認する ○学部主事は学部会で、ヒヤリハット事例と安全点検結果を学部教員に伝える	PL：教務主任、学部主事 SL：分掌主任、学級担任
	○大規模災害を想定した学校体制が作られている	○学校における避難訓練をより充実する ○大規模災害時の避難を想定した取り組みを充実する	○年間3回の避難訓練において、年間2回の消火訓練を行うとともに、年間1回、被災時の非常食を 試食し、実態に応じて食べられるものを個別に用意する ○児童生徒が72時間学校にとどまることを想定した備蓄品の購入を随時進めるとともに、保護者と協働した引き取り訓練を年間1回実施する	PL：保健主事 SL：学部主事、学級担任
2 児童生徒理解と一人一人の教育的ニーズを基にした、どの子も活動参加への意欲を高める授業づくりを行う	○児童生徒が活動参加へ意欲を高めている	○研究をとおして、すべての教師が自分の授業で子どもが活動参加への意欲を高める授業を行う ○研究の成果(ゴール)を具体化し、成果を実践に反映させる	○授業構想チェックシートを完成させ、チェックシートを活用した授業作りと評価をする。（一人2回以上の実践） ○研究成果を学校ホームページの研究ページに掲載し、県内外の小・中・高・支援学校に紹介する	PL：研究主任 SL：教務主任、学部主事、研究部
	○保護者と「合理的配慮」の合意がなされている	○校内で実施する「合理的配慮」の内容を保護者と合意形成し、校内において指導・支援を行う ○授業連絡カードを一人につき一本にし、保護者や関係機関との連携において、効率的でより質の高い方法を決め、実践する	○ケース会議（モニタリング会議、支援会議）を児童生徒一人につき、年間4回以上実施する ○授業連絡カードを定期的に作成し、日々の取り組みの様子や評価を伝え、保護者と連携した指導を行う ○個別の指導計画において指導のポイントと具体的な到達状況等について評価を行い、保護者に提示して理解と協力を得る	PL：生徒指導主事・教務主任 SL：学部主事・学級担任
	○児童生徒の経験が広がり、理解者が増えている	○附属幼小中との交流及び共同学習を充実させるとともに、地域とかかわりのある学習活動を積極的に行う ○地域企業や施設と連携した児童生徒の学習活動を行う	○年間を通じた附属小・中学校との交流及び共同学習を行う(各学部年間2回以上) ○地域の住民を学校行事や授業参観に招待し、児童生徒への理解を深める ○学校行事、作業学習等において積極的に地域の方々、企業・福祉施設の方々との連携した取り組みを行う	PL：学部主事、特別活動主任 SL：教務主任、進路指導主事
3 学校課題解決・目標達成のために職員一人一人がより広い視野で自らの役割と責任を自覚し、組織的に取り組む	○小中高一貫した教育課程の整備がすすみ、より充実した学習活動が展開されている	○小中高一貫した教育課程となるよう引き続き改善を行い、校内で活用するとともに、校外への情報発信を積極的に行う ○教員の進路に関する知識を深め、経験を広げるため、職場見学や進路研修会を行う	○昨年改善した自立活動の考え方を踏まえて実践と評価を行う ○教育課程編成のための資料編を編さんする（3学期末までに） ○年間3回の進路研修会と新任者（小中学部配属）の職場見学を2学期に1回以上行う	PL：教務主任、進路指導主事 SL：学部主事、学級担任
	○教員が働く喜びと達成感を感じ、健康管理がなされている	○教員一人一人が自己目標を明確に持ち、授業実践、実習生指導、分掌業務において課題を設定し、取り組む	○年間2回、分掌会議において、自己申告シートをもとに個々の目標の取り組み状況を話し合う ○教育実習について、全教諭が年間一回以上、指導案を伴う授業の指導担当をする	PL：分掌主任（特に教育実習主任） 学部主事 SL：学級担任
		○勤務時間と仕事内容の自己管理をより徹底し、優先順位を決め、限られた時間内に効率的に仕事をする	○毎日の勤務を勤務時間終了後、2時間程度とし、設定時間を超えて残業するときは、教頭に必要な時間と業務内容を届け出る ○毎週水曜日のノー残業デーを徹底し、勤務終了後30分以内に退庁とし、メリハリのある業務の執行を自己管理する ○年間5日間以上の年次有給休暇の取得を義務付け、計画的に取得しやすい状況を作る	PL：教頭 SL：学部主事、分掌主任